



毎回、お便りをお読み頂きありがとうございます。
2月3日は節分（豆まき）ですが、節分の意味や由来をご存知ですか？
今回は、節分についてのお話です。

節分

裕俊



本来、節分というのは「季節を分ける」という意味で、立春、立夏、立秋、立冬それぞれの前日の事を指していました。しかし、旧暦では立春の頃に新年を迎えるため、立春だけが特別視されるようになり、節分という言葉は立春の前日のみを指すように変化していったそうです。

立春を新年の始めとすると、節分は大晦日となります。平安時代、旧暦の大晦日に宮中で行われる追儺（ついな）という行事があり、陰陽師が悪鬼や疫病（疫病）を弓矢などで祓う儀式を行っていたそうです。室町時代には、豆をまいて鬼を祓う豆うちという儀式へ発展し、江戸時代になると、春を迎える厄払いの行事として、諸国の寺社や家庭に広がっていき、現在の豆まきへと繋がってきたという事です。

何故豆をまくのかというと、古来より穀物には生命力と邪気を払う霊力が宿る、と考えられていた事と、「まめ」が「魔滅」に通じ、魔を滅し無病息災を祈る事に繋がる為です。ちなみに、豆は必ず炒った豆でなければいけません。これは、豆を「炒る」事が鬼を「射る」事に通ずる事と、生豆をまくと、邪気を払う為にまい

た豆なのに、芽が出てしまうと、縁起がよろしくないとされる為です。
まいた後は、豆を食べる事で、鬼を退治したという事になります。自分の数え年の数を食べる事で、病気にならず健康でいられると言われています。
皆様も是非ご家庭で、一年の無病息災を祈り、豆まきをしましょう。



弘法大師のことば

良啓



夫れそ 弘法ぶつぼうはるか 遙あらに非あず 心中しんちゆう にして即すなわち近ちかし

真しん如に外よほかに非あら 身をみ棄すてて何いんか求もとめん

般若心経秘鍵

仏の教えはどこか遠いところにあるのではなく、私たちの心の中にあります。

真実の教えは外に探すのではなく、私たちの身体に具わっています。

私たちは本来、仏になる種を持っています。ところが、悪業にまみれてその力を発揮出来ずにいます。さあ、種に水を与えて美しい花を咲かす様に、自分の心にある種にも仏の栄養を届けて仏の華を咲かせましょう。そうすれば、あなたも今から仏様です。